

令和6年8月4日

東員町議会

教育民生常任委員会委員長 三林 浩 様

教育民生常任委員 三宅 耕三

研修報告書〔教育民生常任委員会〕

研修期間	<u>令和 6年 7 月 30 日 (火)</u> ～ <u>7 月 31 日 (水) 【2日間】</u>
研修（視察）先	1、岡山県-奈義町 2、兵庫県-明石市
目的（テーマ等）	1、奈義町 ・少子化対策について 2、明石市 ・こども医療の無償化について ・中学校給食の無償化について

参加議員名 (複数の場合)	◎三林 浩 ○片松雅弘 ・三宅耕三 ・広田久男 ・山崎まゆみ ・大崎昭一 ・伊藤まり
資料添付の有無	有 ・ (無)

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

1 日目は岡山県勝田郡奈義町＊研修テーマは「少子化対策について」

説明は、奈義町情報企画課、兼、未来創造課の小阪昌平参事。

奈義町は、東は美作市、西は津山市、南は勝央町に接し、北は国定公園那岐山（標高 1255m）、滝山（標高 1197m）連山の分水嶺を境として鳥取県智頭町と接した風光明媚な田舎町。一方で、国道 53 号で津山市から町に入るとすぐに「自衛隊日本原演習場」「陸上自衛隊日本原駐屯地」が目に入り、平日はこの通りで多くの自衛隊車両とすれ違うということである。

奈義町は「平成の大合併」のさなかの 2002 年、住民投票により合併しないという選択をした。しかし、住民投票から 10 年が経ったころ「子どもの声が町から聞こえなくなった」と住民から町の将来を案じる声が寄せられるようになった。「実際、児童生徒の数は減る一方だった」ということ。

子どもの数が減っていった要因の一つとして、子育ての費用負担が大きい考え、町では支援を充実させることにした。

それまでも子育て支援策はあったが、今いる町民だけでは出生率向上には限界があるということで、若い世代の移住者を増やすことを考え、誘致策として独自性が高い、思い切った「子育て支援策」を打ち出した。

2004 年の乳幼児・児童生徒医療給付事業拡充、出産祝い金交付事業開始から始まり、2006 年不妊治療助成事業開始、2007 年高等学校就学支援事業開始、旧保育園の建物を大規模改修した「なぎチャイルドホーム」開設。2012 年子育て応援宣言。2014 年奨学育英金開設。2016 年住宅育児支援金交付金事業開始。2017 年しごとコンビニ事業開始。2020 年子育て家庭食育支援事業開始。2022 年子育て家庭学校教育支援事業開始。2023 年こどもまんなか応援サポーター宣言。2024 年こども園・小・中・学校給食完全無償化など、

今回の研修で印象に残ったのは、子育てに係る経費は行財政運営などで捻出していることや、ALT が、こども園・小中学校併せて 2 名もいることなど、子育てに関わる事業が現在も進行中であることもあって、出生率 2.81 の奇跡の町として「子育て支援策」では他の自治体を大きくリードしている。

所管：子育て支援は、「国がやるものだ」と言う首長がいるが、責任転嫁でやる気がない証拠。子育ては親の責任で「支援は住んでる自治体が行う」という強い信念を持ち、国へのはたきかけは、まず自らが責任を果たしてから各方面に制度作りを働きかけていくべきであり、首長がレガシーのために行う町政なのか、町民のために行う行政運営なのかでは全く意味が違ってくる。

「行政運営とお金を引っ張ってくるのが首長の仕事」であることから、20 年後 30 年後の子孫のために「住んでいて良かった」と言ってもらえる町づくりを進めていくのが、いま、その仕事に従事している者に重大な責任と義務がある。

2日目は、兵庫県明石市。研修テーマは、明石市の子育てに関わる“こども医療の無償化”や“中学校給食費の無償化”などについて、説明は最初に明石市こども局子育て支援室児童福祉課長から説明を受け、続いて明石市教育委員会事務局学校給食課長から説明を受けた。

明石市が進める「こどもを核としたまちづくり」の中心を担うのが、子育て支援の無料化。子育てにかかる経済的な負担の軽減は、人口増加につながっている。親の所得に関わらず、すべての子どもたちにサービスを届けるため、所得制限はない。子どもが病院に行ったときに払うお金は、住んでいるまちによって異なる。

明石市では 2021 年 7 月からさらに制度を拡充し、全国の中核市以上の市ではじめて高校 3 年生まで無料にした。

- ・第2子以降の保育料の完全無料化
- ・0歳時の見守り訪問「おむつ定期便」2020 年スタート
- ・中学校給食費無償化 2020 年スタート
- ・子どもたちに心のこもったあたたかい給食をお届けしている「中学校給食」が所得制限なしで無償になる。教育費が膨らむ中学生のいる家庭の負担を軽減し、子どもの健やかな成長を支えるというコンセプトが嬉しい。

また、高校生まで医療費が無償化されているということだが、働いていても 18 歳までは医療費が無料ということである。

所管：明石市と言えば、前市長があまりにも有名で、今回実施されている事業のきっかけ多くは前市長が手掛けたりトップダウンで命じて行われている事業が殆どであるという印象を持った。

進め方は、少々強引ではないかと思われるところもあることは、担当者の口々から想像できたが、首長の個人的なレガシーのためではなく、市民のため子どもたちのために実施してきたことが人口増に繋がり、子育てしやすい街として一躍その名を全国に轟かせたところは称賛に値する。

東員町とは財政的には大きな違いがあることは当然のことで、同じことができないことは言うまでもないが、手法として学びたいのは、財政的に小さな町ができることは、大きな事業をして借金を残すのではなく、小さくても生活がしやすく、住民サービスが停滞しないよう生活者優先の町にしていくことではないだろうか。

行政を担うものは、多くの町民や職員から意見を聞く耳を持ち、謙虚に町政運営を行うことが何よりも重要であると考えてる。



当日は宮津市議 3 人と同席での研修に



説明の途中で奈義町長があいさつに



研修冒頭に研修の意気込みを語る委員長



研修を終えお礼のあいさつをする副委員